（1） 令和6年度 教職員による自己評価 及び 学校関係者評価

静岡雙葉中学校・高等学校

	評 価 項 目	自己評価	学校関係者評価	
1	**宗教教育の充実・精神性の涵養** ①宗教の授業、宗教行事（全校ミサ、黙想会、錬成会等）、聖堂での朝の祈り、朝礼時に聖歌を歌うことなど、これまでの伝統を大切にしつつ、現在の生徒の状況に合わせて丁寧に実施し、豊かな心を育む。 ②精神性を育むために、学年毎の1年間の経営計画に則って、多面的に活動する。 **【実践と自己評価】**①②各学年、次の通り、宗教行事を実施した。中1：修養会（10月、1日）、中2：錬成会（10～11月、 2泊3日）、中3：黙想会（11月、1日）、高1：研修会（10月、2泊3日）、高2：黙想会（11月、1日）、高3：黙想会（6月、1日）。宗教研修の実りは大きく、個々の自己肯定感の向上、学年全体の精神面での育ち、連帯感を育む場となった。毎朝の祈り、聖歌、週末の聖書朗読を大切にできた。	A	A	毎朝の祈りの時間は精神教育にとても有用である。宗教教育により、正しいこと美しいものの見え方を養っていることは強み。生徒の様子からも、豊かな心を育てる教育が浸透していると感じる。心を養う意味でもこういった活動は非常に重要で、それを続けていることが評価できる。
2	**学習指導の充実・学力の向上** ①学年毎の教育計画、各教科の実践計画に基づき、計画的に教科教育を実施する。 ②基礎・基本の定着、授業中心の学習体制の確立により、学力の向上を図る。 ③観点別評価の方法を研究し、生徒の学習意欲をより高めることに役立てる。 ④生徒個人持ちのiPadやChromebookなどの端末や他のICT機器を有効に活用し、主体的学習や、情報を収集整理し、発信する学習活動が行われるような授業展開について更に研究し、実践する。 ⑤知的好奇心を高めるため、また視野を広げるため、海外研修や、英語検定試験等の各種検定、大学が企画するセミナー、公開講座などへの積極的参加を促す。 **【実践と自己評価】** ①②今年度の教科研修は、新学習指導要領に沿って「主体的・対話的な深い学びを実現する授業づくりの研究と実践」という共通テーマで取り組んでおり、ICTも活用しつつ、各教科で学年に合わせて計画的に進めることができた。③観点別評価は3年目となり、課題の提示の仕方や評価方法についてより学習効果が高まる方法を各教科の特性に合わせて実践した。④5月の教員研修で、ICT活用推進に関する研修を実施し、本校の教員の課題を具体的に考えることができた。⑤中学一年時より、英検取得の呼びかけを熱心に行った。中二では具体的に 3級以上合格55%の目標を立て、実際に63%が合格し達成することができた。中三・高1対象のイギリス研修を7月20日～8月4日に実施、中三対象のニュージーランドターム留学を1月24日～3月22日に実施、中二対象のシンガポール研修を3月23～28日に実施し、国際的な視野の広がりに繋がった。	A	A	海外研修など非日常の体験は、これから国際的な視野の広がりを持ってもらうためにはとても有用である。。ICTを導入し、時代に合った効率的な教育に力を入れている点が評価できる。検定の取得等は、必須にしても良いのではないか。
3	**自律性や社会性及び公共心の育成(生徒指導)** ①基本的生活習慣の確立に努める。 ②自律心、公共心及び社会的規範意識の育成を図るとともに、スマートフォンやインターネット、SNSを利用するときの注意点を、最新情報に基づいて学ぶ。 ③社会性、自治能力、自律心の育成を図るため、生徒会活動、委員会活動、学級・学年活動を充実させる。 ④豊かな精神性を培うため、福祉施設（クリスマス）訪問、ボランティア活動、各種献金活動を充実させる。 **【実践と自己評価】** ①中一は4月末に1泊2日のオリエンテーション合宿を実施。中一以来の生活習慣、学習習慣の確立は、高3の計画的な時間管理となって、学習成果につながっている。②9月に、中学二年～高校1年生合同で、オンラインによる青少年ネット教育アカデミーの講師による保護者対象の講演会を実施、スマートフォンSNSの適切な利用や注意点について学んだ。③④従来実施してきた月例献金の意識の向上のため、名称を「Monthly Charity」として、各クラスで年間支援先を検討決定する方式に変更した。また、釜ケ崎フィールドワーク 市の選挙ボランティア、静岡マラソンへの協力など校外での活動にも積極的に参加した。	A	A	釜ケ崎フィールドワークに参加した生徒からは、得られるものが非常に多く全員が体験すべきという意見を聞いた。とても有意義な体験であったと思う。自律性等の育成がよくなされている。これからの時代、SNSやネットにおけるリテラシーをしっかり教育する必要がある。フィールドワークなどの活動を行うことで社会性が向上するものと考える。
4	**たくましく未来を切り開く力の育成（進路指導）** ①著名人や大学教授、先輩等による講演、校外のオープンセミナー、大学見学、海外研修、様々な体験活動等への生徒の積極的参加を促す。 ②大学入試の最新情報を把握し、生徒・保護者に的確な進路情報を提供する。 ③中三～高2の「コース制」の取り組みと中一、中二の総合学習の時間をまとめて振り返り、探究的な学びが6ヶ年を見通したものとなるよう、全教員が主体的に関わり、内容を更に良いものにする。 **【実践と自己評価】** ①7月に津田塾大学学長による講演会を実施し、津田梅子の生涯を伺い、長い視野でキャリアを考える大切さを学んだ。9月には卒業生の依頼により、サウジアラビアの駐日大使を本校にお迎えし、中学一・二年生に講演をしていただき交流することができた。③中学三年生のコースの授業で東海大学人文学部の日下宗一郎先生を講師に迎え、今年度は学年融合の学問についてのお話しをしていただき、探究学習についての手法や考え方、データの扱い方など、高校からの探究につながる共通の基本を教えていただいた。高1、高2の各コースでもそれぞれ学外講師をお招きし、視野を広げたり、よい刺激をいただいた。	A	A	学業だけでなく、「考え方」や「選択肢」を学び、その実情に触れることが重要な中、実施した事業は価値のあるものであったと考える。学外講師や様々な分野の方のお話を聞く機会により、探究心が育つ学習になっていると思う。
5	**生命の安全確保** ①大規模災害に備え、総合的防災マニュアルを更に見直し、実践につなげる。 ②災害時、学校への宿泊を想定し、防災備品の更なる充実を図る。 ③年度計画に基づき、校内施設、設備の点検、特に防火設備、防災設備の点検を確実に行う。 ④防災訓練は、様々な場合を想定してより実践的なものとなるように工夫し、生徒の防災意識と危機対応能力の向上を図る。 **【実践と自己評価】** ①危機管理マニュアルに基づく新たな地震時生徒避難計画を策定した。3月に生徒に説明、保護者にも配信した。来年度から実施していく。②中一の防災用品については、早期発注し、保管することができた。③年度計画に基づき、夏休み中に計画していた点検を実施した。④夏休み中に起こった地震を踏まえ、今後起こりうる南海トラフ地震などの自然災害に対しての生徒の防災意識の涵養が必要である。来年度からの避難計画を活かして、防災意識と危機対応能力の向上に向けた取り組みを検討していく。	B	B	遠方から通う生徒もおり、通学時間帯も含めれば完璧な対策はなく、安全の確保は難しいと感じる。学校周辺の危険箇所の指摘と対策の指導や、災害用伝言ダイヤルの使い方の理解など、生徒が慌てずに行動できるようになるとよい。いつ起こるかわからない災害や校内における昨今の事件や事故に対してできる限りの対応策を生徒とともに共有しておく必要がある。

（学校側のまとめ）	（学校関係者評価委員会のまとめ）
宗教教育の充実・精神性の涵養、学習指導の充実・学力の向上、進路指導は、おおむね実行できた。生徒指導もおおむね実行できたが、スマートフォン、SNSの適切な使用については、まだまだ課題が残る。安全管理は、広域から生徒が通う本校では、細やかな配慮をしながら、引き続き向上に努める必要がある。	全体としてバランスが取れており、積極的に事業が進んでいると思う。宗教教育により、正しいこと美しいものの見え方を養っていることは強みだと思う。学習指導、自律性等の育成はよくできている。